

第2回サイバーフォレストシンポジウム  
「インターネット森林観察サイトの運用と教育利用」

1. 日時

平成25年2月16日(土) 10:00~17:30

2. 場所

東京大学柏キャンパス環境棟5階講義室(553号室)

3. 参加費

無料

4. プログラム

9:30 開場・受付

10:00-10:10 開会挨拶

10:10-12:00 第1部:気になる人たちのお話を聞く

12:00-13:00 ランチトーク

13:00-15:00 第2部:こども環境学科研についてのパネルディスカッション

15:00-15:30 休憩トーク

15:30-17:30 第3部:コの字テーブルでみんなでディスカッション

(17:40-19:10 情報交換&懇親会)

5. 役員

総括:斎藤 馨

司会:浜 泰一

事務:中村 和彦

サイバーフォレスト研究プロジェクト

事務局メールアドレス:cyberforest@nenv.k.u-tokyo.ac.jp

URL:<http://cyberforest.nenv.k.u-tokyo.ac.jp/>

Twitterハッシュタグ:#tetto #otanomo #otohama #cyberforest

## 6. 登壇者一覧

## ● 第1部：気になる人たちのお話を聞く



谷口 ともり (たにぐち ともり) t-photo@ya2.so-net.ne.jp

谷口写真事務所

フォトグラファー。日本写真家協会会員、電塾運営委員。1996年からデジタル写真に取り組み、2008年からは360°パノラマ写真、そして360°パノラマビデオへと軸足を移してきた。紙の時代からサイネージなどに媒体が変わるとともにコンテンツの役割も変化している。そんな中で何ができるのかを追求して行きたい。



アラカワ ケンスケ (あらかわ けんすけ) araken@kalium.net

アラカワケンスケデザイン

インタラクション デザイナー&エンジニア。岩手県盛岡市出身。デジタル地球儀「触れる地球 Tangible Earth」、インタラクティブなインスタレーション、気象情報で変化する照明、WEB デザイン。グッドデザイン賞、文化庁メディア芸術祭 審査委員会推薦作品などを受賞。国連 NY 本部、G8 洞爺湖サミット、21\_21 DESIGN SIGHT へ展示参加。http://www.kalium.net

## ● 第3部：コの字テーブルでみんなでディスカッション



田邊 薫 (たなべ かおる) ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp

一般社団法人諸塚村観光協会

東京渋谷育ち。1年間の農山村ボランティア「緑のふるさと協力隊」に参加した事をきっかけに、宮崎県諸塚村にIターン。山村の自然と暮らしから学ぶエコツアーの案内人として、マチの人々とムラの面白いおじちゃん・おばちゃんをつなぐ日々。



福本 塁 (ふくもと るい) wingbase@gmail.com

株式会社ウイングベース/NPO 法人オープンコンシェルジュ/東京大学大学院工学系研究科

市民×自然環境×医療をキーワードに、ITや人脈を駆使して地域の課題を抽出し、教育・防災分野等への政策提言に結びつける取り組みを行っている。特に異なる分野間の橋渡しをすることで今まで解決できなかったものへアプローチできるようになることを目標にしている。



古橋 大地 (ふるはし たいち) info@mapconcierge.com

マップコンシェルジュ株式会社/東京大学空間情報科学研究センター/OSMFJ/OSGeo.JP

東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学修士。専門は森林リモートセンシング。地理空間情報の利活用を軸に、Google ジオサービス、オープンソース GIS (FOSS4G)、オープンデータ (OpenStreetMap) の技術コンサルティングや教育指導を行っている。



植田 睦之 (うえた むつゆき) mj-ueta@bird-research.jp

NPO 法人バードリサーチ

バードリサーチで調査研究に興味のあるバードウォッチャーと研究とをつなぐような活動をしている。サイバーフォレストの仕組みも、離れている人が一緒に鳥の声をモニタリングする仕組みとして活用している。



志村 正太郎 (しむら しょうたろう) infoforester.jp@gmail.com

東京大学大学院新領域創成科学研究科

修士号取得後、SEとして8年、IT業界に従事する。時代がやっとサイバーフォレストに追いついてきたと思い、フリーのエンジニアをしながら、斎藤研究室に研究生として戻ってくる。iOS アプリを中心に、サイバーフォレストで蓄積されたコンテンツをどのように生かすかに興味を持っている。

## ● 第2部：こども環境学科研についてのパネルディスカッション

## ◎ 基調講演



中村 和彦（なかむら かずひこ） nakamura@nenv.k.u-tokyo.ac.jp

東京大学大学院新領域創成科学研究科：森林映像アーカイブ、サイバーフォレスト

齋藤馨教授のご指導のもと、修士課程から博士課程まで計6年間にわたり研究を継続し、このたび博士号をいただける運びとなりました。このたび、まことに僭越ながらパネルディスカッションの基調講演としまして、博士論文の内容をこども環境学科研との関連という視点からお話させていただきます。

## ◎ パネラー



齋藤 馨（さいとう かおる） kaoru@nenv.k.u-tokyo.ac.jp

東京大学大学院新領域創成科学研究科：自然環境学、サイバーフォレスト

——今回、科研との絡みで「アサガオ・プロジェクト」を立ち上げると伺いましたが？

「アサガオの観察」は多くの小学生にとって既存の体験です。そこで、日本全国で観察されるアサガオの日々の写真をアップしてお互いに観察できる「アサガオ観察サイト」の構築運用を進めます。



渡辺 隆一（わたなべ りゅういち） wataryu@shinshu-u.ac.jp

信州大学教育学部：生物季節学、環境教育学

——フェノロジー観察を小学生向けの教材としてどのように活用し得るでしょうか？

生物の生活が季節によって変わることから「(季節変化も含めた) 環境とは生き物と自然との関係」なのだと思ふ教育に進化させたらと考えます。理科の発展として環境教育を考えても良いかもしれません。

(<http://cert.shinshu-u.ac.jp/sch/chu/magano/greeting/%EF%BC%A8%EF%BC%92%EF%BC%93greeting/seihukukoutyou.html> より写真転載)



岩岡 正博（いわおか まさひろ） iwaoka@fe.rn.tuat.ac.jp

東京農工大学大学院農学研究院：森林利用学、サイバーフォレスト

——小学校段階では森林に関してどのような学習をすべきでしょうか？

日本は世界有数の森林率を誇るわりに、森林に対する心の距離が遠いように感じます。森林は大昔から持続的に生活に利用されてきた身近な存在として、意識してもらう必要があると考えています。



中山 雅哉（なかやま まさや） nakayama@nc.u-tokyo.ac.jp

東京大学情報基盤センター：情報通信学、サイバーフォレスト

——数々の遠隔講義に携わってこられて、そのメリットとデメリットをどのようにお考えですか？

仮想的な遠隔授業の体験と、現実の体験とがセットになっていると、自発的な行動に繋がるようです。森林での現地体験を少人数でも企画すれば、学習に差が生じるかなどを検証できるかもしれません。

(<http://www.eeis.t.u-tokyo.ac.jp/?CCSC%20Faculty%20FNAKAYAMA%20Masaya> より写真転載)



大辻 永（おおつじ ひさし） otsujih@mx.ibaraki.ac.jp

茨城大学教育学部：科学教育学

——10~20年という長時間のフェノロジー観察を授業にどう位置づければ良いでしょうか？

たくさん同じ場所の映像を子どもが見るとき、子どもでもできる「見る目」が与えられると良いですね。子どもなりの「帰納」を映像群でどのように実現させてあげられるか、ということかと思います。



藤原 章雄（ふじわら あきお） akio@uf.a.u-tokyo.ac.jp

東京大学大学院農学生命科学研究科：森林情報学、サイバーフォレスト

——サイバーフォレスト生みの親として、本格的な教育分野への応用についてどうお考えですか？

サイバーフォレストの活用分野として、今後はさらに、娯楽、報道、研究、合意形成や政策決定の場での活用など、どんどん広げていけたらと妄想はふくらむばかりです。

Memo: